

◆31 番（森田卓司議員） 本日最後の質問者となりました新風会の森田卓司でございます。最後まで御清聴よろしくお願い申し上げます。

まず、先ほど田中議員もおっしゃられましたが、私も、11月15日御逝去されました土肥議員に対しまして心からお悔やみを申し上げます。

25年の議員生活であったとお聞きしておりますが、私自身は土肥議員とのつき合いは5年間でございます。そして、5年間のうち最初の2年間は私の会派、新風会におられました。田中議員も先ほど言われておりましたが、本当に優しい人柄というか、いろんなことに気がつく議員さんでございました。土肥さんからは政令市になったらこういうことになる、これは言わんほうがええんかもわかりませんが、政令市になったら議員の報酬も上がるしというようなことも、一つのポテンシャルとしてそういうこともやっていかにやいけんのじゃというような話を聞きましたが、それは土肥議員さんがずっと生きて活動してくださったらそのまま上がったかもしれませんが、今は下がっております。ぜひ土肥さんが言われたようにしっかりと政令市の議員として活動して、市民の皆様が市議会議員の報酬も上げてやってもえんじゃねえんかというようなことをしっかりとやっていかななくてはならないと思っております。

また、土肥議員さん、本当に人を思う気持ち、代議士の秘書をされていた関係もあるのかもわかりませんが、1期目、2年ぐらいで柴奥さんが亡くなりました。柴奥さんも私と同じ会派でございました。そのときに、四十九日が過ぎて、「森ちゃん、柴奥さんの墓参りに行こうや」というような声をかけてくださいます、私はそんなことは気がつかなくったんですが、柴奥さんの墓参りに行かせていただきました。本当によくいろんなことに気がつく議員さんだったなと思っております。そんな土肥さんがおられなくなりまして、あそこに花が飾られておりますが、本当に家族を愛し、市民の皆様方を愛し、そしてこの議会も愛し、いろんな活動をされてきたと私自身も思っております。その土肥さんの遺志を引き継いで、しっかりと議員活動をしていかななくてはならないと思っております。

実は、このネクタイは土肥議員にプレゼントしていただいたもので、きょうは締めてまいりました。だから、きょうは前を外させてもらって質問をさせていただきます。

さて、質問に入る前に、4期16年、岡山県のかじ取りを行ってこられました石井知事が勇退をされました。そして、10月28日の岡山県知事選挙で伊原木新知事が誕生されました。11月26日には、高谷市長と伊原木知事が初めて懇談をされ、県と岡山市の連携を確認されております。

政令指定都市に移行した岡山市でございます。多くの権限が岡山県から岡山市に移譲されてまいりましたが、岡山県と岡山市の関係、これは緊密でなくてはならないと思っております。特に災害時等の連絡体系などというのはしっかりとやっていかなければならないと私も思っているところでございます。

また、11月定例県議会初日、就任後初の県議会で伊原木知事は経済活性化、教育再生に最優先で取り組むと同時に、中山間地域の有害鳥獣対策、そして公共交通の維持といった

課題に正面から向き合う等の所信表明がなされております。中山間地域に住む私にとりましては、イノシシとかそういう部分は、やはり岡山市だけで解決できる問題ではないと思っております。周辺地域としっかりとした連携をとってやらなくてははいけません。そのためには、やはり県と市がしっかりと連携をとってやっていかなくてはならないと思っております。

また、これは私が市議会議員にならせていただいて、1期目の最初の質問からずっと課題でございましたが、旧福渡高等学校の跡地の活用でございます。高谷市長、今までの歴代の副市長、関係局長、市の担当職員の方、そして市議会議員の皆様方、多くの皆様方の御尽力をいただき、プロポーザル方式でやっと事業者が決定いたしました。先月11月には地元の皆様方に説明会があり、本当に地元の皆様方もやっと安心をされたところでございます。

その説明会の中で、取り壊される前の福渡高等学校を見たいという質問があって、きょう6日から9日まで、校舎には入れないんですが、福渡高等学校の中に入って見学ができるというようなことも実施されております。

そういうことで、今まで私も地域の方々から、いつになったら、おめえ、やれるんならというようなことでお叱りを随分受けてまいりましたが、やっとその問題に解決がつき、平成26年の開校、開設に向けて、順調にこの事業が進むように見守っていきたいと思っておりますし、議員の皆様方の御協力もお願いをしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、通告に従いまして質問に入らせていただきます。

まず、1、魅力ある岡山市を目指して。

今さら申すまでもありませんが、シティープロモーションとは、まちの魅力を磨き上げ、まちが持つさまざまな地域資源を外に向けてアピールすることを言い、みずからのまちの認知度や好感度を上げ、地域そのものを効果的に全国に売り込みをする活動を言います。近年、各都市で戦略的に行われており、シティーセールスなどとも呼ばれており、岡山市でも高谷市長を先頭にシティープロモーションを積極的に行っていることは、経済委員会資料、新聞報道等で紹介されています。

経済委員会資料で、10月2日に実施された「岡山市シティープロモーション in 椿山荘」の地元出展者へのアンケートで、9割近い方々が継続的な事業展開を望まれていることに対して大変感激をしています。私は、岡山市をアピールするためには、まず岡山市の魅力を岡山市民全体が地域の魅力も含めて同時に共有することが大切であると思っております。

そこでお尋ねします。

現状を含め、御所見をお示してください。

次に、本市では、魅力度アップ等のために各種の施策を行っています。

以下、数点お尋ねいたします。

(1) 岡山市民の日について。

平成 24 年 2 月定例市議会で高谷市長は、「昨年 2 月に岡山商工会議所青年部から提言をいただいた岡山市民の日につきましては、各方面の意見も踏まえて検討した結果、6 月 1 日が最もふさわしいと考えており、本年度中に制定し、郷土・岡山への理解と関心を深め、愛着と誇りをはぐくむための日として、広く市民への周知を図ってまいりたいと考えております」と所信表明で発言されています。制定の趣旨も同様であり、またホームページでの市民の日に関する市長コメントでも、岡山市民の日の PR を行うとともに、まちづくりの主役である市民の皆様の間から郷土愛の輪が広がり、市民全体の盛り上がりにつながっていくことを期待するとあります。

そこでお尋ねいたします。

ア、本年度の市民の日の関連行事等に関する検証、御所見をお聞かせください。

イ、来年度は 6 月 1 日が土曜日となっております。岡山市民の日を制定してよかったと思われるような事業をすべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

(2) 市民意見の反映の方法について。

魅力ある岡山市をつくるためには、市民の皆様方のいろいろな意見をお聞きし、反映をすることは欠かせないことであると思います。私たち議員も、市民の皆様方の御意見をお聞きし市政に反映することは大きな仕事であると思っております。

一方、市当局が市政への市民参加を促進し、市政に幅広い考え方を反映させるための制度も設けられています。多くの方法で市民の意見募集をされていると思います。市民の皆様方からの意見を反映するために、ホームページにアンケートのバナーがあります。現在ホームページ上に掲載されているアンケート結果を見ると、非常に多くの意見が寄せられ、よく分析もされていると私は思っております。今後の幅広い活用を要望いたします。

以下 2 件についてお伺いいたします。

ア、パブリックコメントについて。

パブリックコメントに関しては、岡山市パブリックコメント手続実施要綱で示されています。

そこでお尋ねいたします。

①本年度 11 月末までに実施したパブリックコメントの件数をお示してください。

②市民からの意見がなかったパブリックコメントの件数と、1 から 10 件、そして最多の件数をお示してください。

イ、市長への提案箱制度について。

市長への提案箱制度も実施要領が示されており、市政への市民参画を促進し、市民の市政に対する幅広い考えを積極的に市の施策に反映させ、市と市民のコミュニケーションの向上を図り、もって市勢の発展に資することを目的とする制度でございます。

そこでお尋ねいたします。

平成 23 年度、平成 24 年度の市民からの提案件数をお示してください。また、それぞれの年度の提案に対する掲載件数をお示してください。

次に、(3) 区づくり推進事業についてお伺いをいたします。

区づくり推進事業は、決算書によると平成 22 年度 2,151 万円余、平成 23 年度 2,307 万円余、事業数で 57 件となっており、本年度予算も 4,160 万円が計上されており、それぞれの地域の特徴を生かした事業を行い、着実に定着している事業であると私は認識をしております。平成 23 年度の 57 事業一覧を見ますと、多くが各地域の特徴を生かし、また地域コミュニティの育成と活性化のイベント事業となっております。このような事業で地域の活力と元気が生まれており、今後もよりよい事業になるよう期待をしているところでございます。

そこでお尋ねをいたします。

ア、区づくり推進事業を開始してから平成 23 年度事業までの検証、今後の課題があればお示しください。

イ、2 年以上の継続事業であれば、前年の事業等実績書及び事業報告書の提出で、審査会での事業説明を免除することは考えられないでしょうか。

次に、(4) 区役所のあり方と拠点についてお伺いをいたします。

区役所については、南・東・中区等では建設が始まった区役所、位置が決定した区役所等、整備計画が進行しております。多くの市民の方々が北区の区割りについては疑問を持たれていると思っております。

そこでお尋ねいたします。

ア、昨年 6 月定例会市議会で私の本庁舎に対する個人質問の再質問に対して、本庁舎の耐震化にはそれだけで多額の費用がかかると見込まれることから、今後公共施設等整備基金への着実な積み立てなどにより財源確保を図ると財政局長より答弁をいただいております。それを受けて、平成 23 年度には 30 億円余の基金への積み立てがあり、平成 23 年度末の基金は 36 億円余、そして今議会でも 2 億 5,000 万円の積み立てで、局長答弁のとおり着実に財源確保が行われております。

どの段階で、本庁舎の耐震化、建設の判断を下されるのか、考え方をお示しください。

イ、北区以外は区役所の存在感があると思いますが、北区、特に北区北の地域にとっては北区役所の存在が薄いと感じている方々が多いと思います。9 月市議会で市民サービス窓口・拠点の再編案が示され、それに対する要望書が提出されています。個別の考え方は今後の課題であるとのことですが、要望書の趣旨は理解して再編計画を実行していただいているのかどうかお示しください。

ウ、きょうも田中議員が、区長の権限に対してではありませんでしたが、区に対してのいろんな質問をされており、本会議では、今までも、区長の権限に対して多くの質問が出ています。私も、各区のことを一番よく知っているのは区長であると思っております。また、区長でなくてはならないと思っております。地域の特徴を生かした事業、例えば古くから地域に伝承されている伝統的な芸能や祭り等の文化伝承振興事業に対してだけでも区長に予算編成・執行権を与えるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

次に、2、平成24年度11月補正予算から。

(1) 高齢者地域支え合い体制づくり事業についてお伺いをいたします。

事業の趣旨は、老人クラブの活性化を図るとともに、地域の支え合い体制づくりを支援するため、老人クラブが会員以外の高齢者とともに行う活動に必要な経費の一部を補助すると示されています。

そこでお尋ねをいたします。

ア、具体的な事業内容をお示してください。

イ、各老人クラブにはどのような方法でこの事業への募集をされるのでしょうか。

ウ、岡山市老人クラブ連合会への加入実績は、平成22年度と平成23年度を比較すると、クラブ数は増加していますが会員数は減少傾向にあります。平成23年度の実績を踏まえて、現状の認識と課題をお示してください。

(2) の障害児通所支援事業については割愛をさせていただきます。

次に、3、岡山市立学校の適正規模化についての基本的な考え方(案)について質問をさせていただきます。

地域から保育園、幼稚園、小学校をなくしてしまうということは、若者たちの定住意欲を失わせ、過疎に拍車をかけることにもなります。岡山市が目指している子どもたちや高齢者が安全で安心して暮らしていけるまちづくりのためにも、コスト面からだけではなく考えていく必要があります。小規模校を守りたい、互いに助け合い、肩寄せ合って頑張っている学区を守りたい、そんな思いでこの項の質問をさせていただきたいと思います。

(1) 学力を優先しての考え方が、学校、地域が一体となってよりよい学校づくりを考えたか、どちらを重要視しているのかお示してください。

(2) 建部地域では、建部中学校、竹枝・福渡・建部小学校の全てがユネスコスクールに加盟しており、学校が取り組む環境や国際理解活動などのサポートにも力を入れています。ESDユネスコ世界会議が岡山市で開催されることが決定し、全市を挙げてこの会議の成功を目指している中で適正規模化が提案されていることは、ESDの成功を願って活動をしている組織や地域に影響を与えることにはならないのか、御所見をお示してください。また、2014年ESDの会議は、終わりではなく、新たな取り組みの始まりではないかと思っております。学校規模の適正化の方向性との整合性をお示してください。

(3) 建部町の建部中学校、そして3小学校では、来年度から地域協働学校をスタートするための準備を進めているとお聞きしています。地域協働学校の主な取り組みをお示してください。

(4) 竹枝小学校を中心とした竹枝地域の取り組みに対してどのような見解をお持ちか、お聞かせください。

(5) 竹枝小学校では、今までの地域との交流を含む活動が全国的に発信をされ、今年度の生徒数は、市政のしおりによりますと、9名の児童が増加しております。適正規模化の過小規模校についての基本的な考え方で、将来的にも児童数の増加が見込めないと考える

学校については等々とありますが、竹枝小学校は入っていないことを確認いたしますが、いかがでしょうか。

(6) 私見ではありますが、竹枝地域、竹枝小学校の関係者の皆様方は、学校規模の適正化が提案されるごとに、今までの取り組み、今後の取り組みを児童数だけで判断されることに、教育委員会に対して失望と怒りを感じているのではと想像いたします。地域の方々の思いをどのように受けとめていくのかお示してください。

以上で1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎深澤正志財政局長 1項目めの御質問のうち、区役所のあり方について、地域の特徴を生かした事業に対してだけでも区長に予算編成・執行権を与えるべきではないかとのお尋ねですが、区で執行する予算につきましては、区内の調整を図り、必要経費を取りまとめた上で、本庁の関係局と予算調整をしております。一定のルールの中での要求という点では、本庁各局と同じとなっております。その上で、予算案が議決された後は、必要な予算が全て各区に委託令達により配当されることとなるため、その後の執行に関しては本庁各局と全く同じ権限を有することとなっております。

均衡ある市域の発展のための事業の調整等を考え、今後もこの仕組みを基本としたいと考えております。

以上です。

◎坂元秀徳安全・安心ネットワーク担当局長 市民意見の反映の方法に関して、パブリックコメントの件数についての御質問に一括してお答えいたします。

市の基本的な政策等を立案する過程において、当該政策等の趣旨や内容等を公表し、これらに対する市民の多様な意見等を反映させた政策形成を行うことは、市民の市政への積極的な参加の機会を確保する観点からも非常に大きな意義があることと認識しております。

お尋ねの今年度実施した件数は、実施中のパブリックコメント1件を含めまして19件でございます。このうち、意見がいただけなかった案件の数は9案件、10件以下の意見をいただいたものが2案件、11件以上の意見をいただいた案件が7案件であり、最も多い意見数は634件でありました。

次に、市長への提案箱制度について、平成23年度、平成24年度の市民からの提案件数と市のホームページへの掲載件数はとのお尋ねにお答えいたします。

市長への提案箱制度は平成20年度から実施しており、議員御指摘のとおり、市政への市民参加を促進し、市民の市政に対する幅広い考えを積極的に市の施策に反映させ、市と市民とのコミュニケーションの向上を図り、市勢の発展に資することを目的として制度化したものであります。この制度に沿って平成23年度においては356件、今年度においては11月末までに149件の意見等をいただいているところでありますが、このうち市のホームペ

一頁へ掲載している件数は、平成 23 年度分が 15 件、今年度分は現時点で 4 件を掲載しております。

この制度の実施要領で定めている市の施策、地域の課題及び将来の展望その他市政に関する意見を期待しているところではありますが、その内容はさまざまであるため、この制度の趣旨に合致しないものについては掲載いたしておりません。

次に、区づくり推進事業について、平成 23 年度事業までの検証、今後の課題について、そして 2 年以上の継続事業であれば審査会での事業説明を免除することは考えられないかとの御質問に一括して答弁いたします。

区づくり推進事業は、岡山市都市ビジョンにおける都市像の実現を目指し、各区の特色を生かしたまちづくりを各区内に居住し、通勤し、通学する区民等と協働して推進することを目的として平成 22 年度から実施されている事業であります。そのため、各区に審査会を設置し、区民等から選ばれた審査会委員により申請された事業を審査していただくとともに、事業完了後は事業評価を実施していただいております。

この審査会では、申請者の代表に事業内容、資金計画、実施体制等を説明していただいた上で、申請者と審査会委員が協働して知恵を出し合い、毎年工夫しながらそれぞれの事業がより各区の特色を生かしたまちづくりにつながることを目指していることから、審査会での事業説明には大きな意義があるものと考えております。

平成 22 年度と平成 23 年度の 2 カ年で計 114 件の事業が実施された中では、ふなれな事業計画書や予算書等申請書の作成に対する労力、十数人の審査会委員を面前にしたヒアリングに対する負担感、事業実施時期と申請時期が乖離していること等についての御意見をいただいているところであります。

こうした課題の改善策については、審査会の委員長、副委員長との協議の場や本庁と区の職員による担当者会議などを通じて意見の集約を行っているところであります。

以上でございます。

◎福山潔行政改革担当局長 区役所のあり方と拠点についての中で、要望書の趣旨は理解して再編計画をとの御質問にお答えいたします。

市民サービス提供体制の基本方針素案では、新市計画期間が終了した後は現在の支所が地域センターへ移行する旨をお示ししているところですが、支所から地域センターへ移行した場合の産業建設機能の再編などにつきましては、市民サービス窓口・拠点の再編とは別に、これまでの経緯や地理的な条件等を踏まえた慎重な検討が必要であると考えております。

議員御指摘の御津・建部地区の方々からいただいております広大な中山間地域への対策に関する要望につきましては、関係部局とその趣旨を共有しているところでございます。

以上です。

◎高次秀明経済局長 シティープロモーションに当たりまして、岡山市の魅力度を岡山市民全体が共有することが大切ではないかという御質問でございます。

本市では、地域経済の活性化とともに知名度や都市イメージの向上を図るため、国内外のシティープロモーションを推進しております。国内では、首都圏において観光・コンベンション誘致や特産品の販路拡大を図るためのビジネスマッチングなど、地元業界の方々とともにセールス活動を行っており、出展者、招待者双方の方々から好評をいただいております。

一方、海外では、空路開拓を行う岡山県とともに東アジアの主要都市でプロモーション活動を行い、韓国・ソウル便や中国・上海便の増便が実現するとともに、台湾、香港にもチャーター便が数多く運行するなど着実に成果を上げております。また、市独自にOKAYAMA倶楽部を各地に立ち上げるなど人的なネットワークを形成、拡大し、プロモーション後の継続的なセールス活動を強化しているところでございます。

こうした具体的成果が得られる一方、市民の皆様にとって参加意識が乏しく、また本市の知名度や都市イメージがどの程度向上しているのか認識しにくい面もあるのではないかと感じております。

今後は、ESDに関するユネスコ世界会議の開催など、本市の持つ都市としての強みや魅力を幅広く国内外に情報発信するとともに、特に国内プロモーションにおいては、岡山のアイデンティティーを明確にするるとともに、市民の皆様にもその魅力を共有していただく取り組みも工夫し、全市的な広がりを持って情報を発信できるよう、プロモーションの実施方法を工夫していくことが必要であると考えております。

以上でございます。

◎岸堅士保健福祉局長 平成24年度11月補正予算からの項、高齢者地域支え合い体制づくり事業の事業内容、募集方法、会員数についてお答えします。

高齢者地域支え合い体制づくり事業は、ルームランナーや体脂肪測定器などの介護予防活動に必要な経費の一部を補助することにより、老人クラブ活動の活性化を図るとともに、会員以外の高齢者も含めた地域での介護予防の取り組みを進めるものです。

募集については、約650の全ての老人クラブへ募集案内と補助金交付申請書を郵送することとしております。

なお、平成23年度の会員数は3万9,510人で、平成22年度と比較して約650人減少しております。本市の老人クラブ加入率は、政令市の中でトップクラスではありますが、近年会員数の減少傾向が続いており、これはリーダーが高齢化しクラブ活動が活性化しないことや、比較的若い高齢者の加入が進まないことなどが原因と考えております。

老人クラブは、高齢者が健康で生きがいを持って暮らせる地域づくりの中核団体と考えており、今後地域との連携を深めるとともに、リーダーの育成や介護予防、スポーツ、教養講座の開催など、クラブ活動の活性化に努めてまいります。また、高齢者地域支え合い



体制づくり事業は、会員以外の地域の高齢者も対象にしていることから、事業の実施を通じて会員数の増加にもつながるものと期待しています。

以上です。

◎山脇健教育長 岡山市立学校の適正規模化についての基本的な考え方（案）についてのお尋ねでございますが、まず学力優先の考え方か学校と地域が一体となってよりよい学校づくりを考えてか、どちらなのか、また基本的な考え方に竹枝小学校が入っているのか、地域の方の思いをどう受けとめているのかとお尋ねにお答えをさせていただきます。

御存じのように、学校は地域の人々に支えられ、地域の中の学校として存在しております。地域と学校との協働によってよりよい学校づくりを進めていくことは大切であります。また、学校教育ということを考えてみますと、やはり子どもたちが集団からさまざまなよい影響を受けて切磋琢磨し、そして学力だけでなく人間性や社会性が育まれることも大事であります。いずれも欠かすことのできない重要な視点であるというふうに考えております。

今回の基本的な考え方（案）は、あくまでも学校の適正規模化に当たっての基本的な考え方をお示ししたものでございます。今後も、議会などの御意見をお伺いしながらまとめていきたいと考えております。

また、学校と一体となって学校をよくしていこうという地域の熱意と思いというものは大変ありがたく思っております。適正規模化に当たりましては、学校の歴史的背景や地域コミュニティ等も十分考慮しながら、子どもたちの教育環境として何が大事なのかということ等を第一に考えて、地域の方や保護者の皆さんとの話し合いは大切にしながら進めていきたいというふうに考えております。

次に、建部地域でのESD活動への影響、また地域協働学校の主な取り組みについて、竹枝地域の取り組みに対する見解をとのお尋ねでございます。

ユネスコスクールの認定を受けた竹枝小学校では、地域の「竹枝を思う会」と協働して、旭川の環境を調査する水辺の楽校——この「ガク」というのは楽しいという「楽」ですね——楽校などの活動を通して環境学習を進めております。また、建部中学校区の各学校では、地域の環境学習施設であるめだかの学校の活用や、地域で行われる環境まつりへの参加など、地域の方々との交流も行っております。いずれも持続可能な地域社会づくりに貢献できる児童・生徒の育成を目指した取り組みと言えます。

地域協働学校の取り組みにつきましては、市民ネットの森山議員にお答えをしたとおりでございます。

ユネスコスクールや地域協働学校の取り組み、これから始められると思いますけど、この地域協働学校の取り組みは中学校区を中心に、地域に根づいた取り組みとして継続すべき取り組みであると考えております。

以上でございます。

[31 番森田卓司議員登壇, 拍手]

◆31 番（森田卓司議員） 御答弁ありがとうございました。

ちょっと再質問が順不同になります。学校のほうから行きます。

最初に、地域から保育園、幼稚園というような言葉を使わせていただきましたが、これは私が平成 19 年の新風会の代表質問で用いた枕言葉でございました。それを今回引用させていただきますましたが、本当に地域の方々が、学校を中心に何とかいい地域をつくろうと頑張っておられます。そのことは先ほどの教育長の御答弁からもしっかりうかがえるわけですが。

今回、足守小学校の統合に関するアンケートを行われました。全てがよかったというようなアンケートが多かったと言われるんですが、それは何年もかけて統合した小学校で、統合して 1 年ぐらいの間にアンケートをして、その結果が統合せにやえかったというようなことにはならないと思うんですよ。だから、そのアンケートをもとに、じゃあ基本的な考え方をまたつくり直しましょうというようなことを繰り返していると、私は竹枝のことをちょっと言いますが、竹枝小学校の保護者の皆さんも、何かじわじわじわじわ、小せえ学校に行ったらおえんでというようなことを言われているんじゃないかと思われると思うんですよ。ですから、そうじゃなくて、やっぱり案を示すとか何を示すとかというのはもっとよく考えてやっていただきたいと思います。だから、アンケートをしたらここはよかったから、ほんなら統合すりゃえかろうがというて、だんだんだんだんその保護者の方をおえんでおえんでみたいな感じに思わせる、そういう誘導みたいなのは、私は教育の観点から考えてもおかしいんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

それから、めだかの学校のことが出たんですが、これ不規則発言になっちゃいけませんので言いませんけど、しっかり金をかけて改修してやってください。なかなか活動がしにくいような状況でございます。これは要望で結構でございます。

じゃあ、そういうことで、学校の統廃合につながるような発言には十分気をつけていただきたいということに対しての御意見と先ほどのことを質問とさせていただきます。

次に、魅力ある岡山市を目指しての項ですが、ブランド総合研究所というところの第 7 回地域ブランド調査 2012 の魅力度ランキングの調査結果を見ますと、岡山県は前年の 37 位から 33 位へ上昇しております。広島県は、岡山県より 2.8 ポイント上位の 22 位と結果が出ています。同調査では、全国市区町村ランキングも発表していますが、倉敷市は 21 位にランクインされています。100 位以内に岡山市はいません。どこら辺に位置するのかなと思って探そうとしたんですが、ちょっと時間が足りなくて探せなかったんですが。

やっぱり岡山市がどういうふうな位置にいるのかということをしつかりと認識しないといけないんじゃないかと思えます。私どもも委員会の視察とかでいろんなところに行きますが、岡山市を知っておられますかと聞いたら、やっぱり倉敷市のほうを皆さんよく知っていて、倉敷市のことを言われます。だから、やっぱりもっと岡山市のことを私どももセ

ールスしていかなくちゃいけないし、市当局の皆さんと一緒にやっていかななくてはいけないのではないかと感じております。これは感想でございます。

それから、パブリックコメントです。よく議会の質問で、パブリックコメントを実施しましたというような答弁がございますが、今の答弁では19件実施して、9件に対しては意見がなかったということでございます。これは条例とかのためにしなくちゃいけないからするんだと思うんですけど、やっぱりもっと広報する、広報の仕方にもいろいろ時間の制約とかあるようにはお聞きをしましたが、市民の意見がないのにパブリックコメントをしましたというようなことを言っても私は納得することができませんので、市民のひろば等への広報はしっかりするべきではないかと思いますが、いかがでしょうか、質問でございます。

それから、市長への提案箱もホームページで見ましたら、今年度に限って言えば、毎月1件ずつしかこういう意見があったということをおっしゃっておりません。ですから、これも、今言われた誹謗中傷といった部分も多々あると思いますし、建設的な意見がないから載せられないのかもわかりませんが、できるだけ多くを載せることがいいのではないかと感じております。これは感想にしときます。

それから、区づくり推進事業ですが、年度途中ではありますが、わかる範囲で平成24年度の事業数と事業金額を教えてくださいませんか。

それから、本庁舎の耐震化、建設でございますが、川本議員にお答えしたとおりですとの答弁でした。川本議員、早急にというような答弁でしたね。早急にということは、近いうちより早いということでしょうか、お聞かせください。

以上で再質問を終わります。御答弁よろしく願いいたします。

ありがとうございました。(拍手)

◎片山伸二理事　本庁舎の耐震化、建設について、早急にとは近いうちより早いのかという再質問をいただいております。

本庁舎の耐震化、建てかえにつきましては、本市にとって非常に重要な課題、喫緊の課題であると認識しておりまして、現在内部的にどのような手法、工法がいいのかといったことについて、たくさんございますので、余り幅広くし過ぎてもなかなか検討が進まないということで、ある程度の絞り込み作業を進めているところでございます。

その上で、今度具体的な検討に入るためには、それぞれの手法、やり方、工法によって概算でどの程度の費用が必要なのかといったものを出した上でないと具体的な検討ができないということで、そういった作業がこれからも必要になってくるというふうにご考えております。したがって、現時点でいつごろということはお示しできるような状況ではございませんが、可能な限り作業スピードを速めまして、できるだけ早くそういったような方向性をお示しできるように頑張りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

◎坂元秀徳安全・安心ネットワーク担当局長　パブリックコメントについての意見等の数が少ないということに關しまして、市民のひろばへの広報をするなど工夫をしたらいかがかということでございますが、議員御指摘のとおり、事案におきましては意見等の少ないものがこれまでもありました。今後、それぞれの事業に対する市民の関心を高めるための工夫、あるいはパブリックコメント実施に当たっての市民のひろばを含めた周知方法の工夫、それから意見等の市への提出のしやすさ等についての工夫等々について、市民からできるだけ多くの意見等が寄せられるように研究してまいりたいと思います。

続きまして、今年度の区づくり推進事業のこれまでの事業数、金額をというお尋ねでございますが、今年度の事業につきましては、64件が事業決定されておりました、2,969万円余の補助金を交付する見込みとなっております。この事業数及び補助金額とも増加の傾向にあります。

以上でございます。

◎山脇健教育長　学校の適正規模化についての再度のお尋ねでございますが、地域の皆様の学校に対する思い、また子どもたちに対する思い、それは私ども教育委員会としても同じであろうというふうには思っております。

その中で、やはり1点、しっかり考えていかなければならないのは、子どもたちの教育環境にとって何が一番ふさわしいのか、どういう形が一番よいのかということは、教育委員会としてしっかり考えておかなければならないだろうと思っております。しかし、先ほども申し上げましたけれど、そういうものを置きながらも、やはり地域の方々のお気持ちというものも考えながら、一緒に考えていくというスタンスが必要ではないかということでは思っているところでございます。

以上でございます。